

# 福竜丸だより

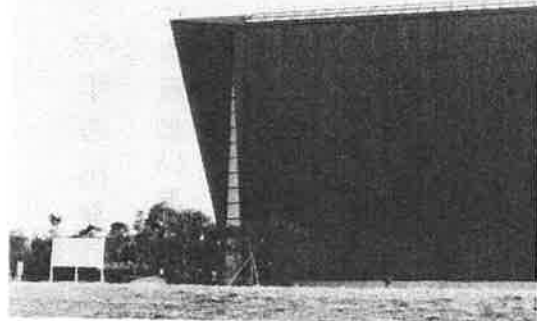
都立・第五福竜丸展示館ニュース

(財)第五福竜丸平和協会

〒136 東京都江東区夢の島3-2  
都立・第五福竜丸展示館内  
電話(521)8494

## ●100万人参観者運動を!

'82年12月来館者数	6,698名
通算1ヵ月平均来館者数	4,274名
当月1日平均来館者数	279名
通算来館者数	329,091名



示館にも、一年間に七万人をこえる来館者を迎えました。また、開館以来の来観者の累計は、三十三万人をこえました。

これらのことは、展示館ができたころには全く予想もなかったことです。展示館の使用命がますます大きくなったことを感ぜざるを得ません。

展示館にお出でになった方は、よくご承知

## 新年のごあいさつ

三宅泰雄

新年おめでとう存じます。旧年中は東京都ご当局をはじめ、各界からのご援助、ご鞭撻をいただき、厚く御礼申し上げます。

昨年はわが国をふくみ、世界中で反核兵器、平和の市民運動の画期的なひろがりを見せた年でした。その影響もあって、第五福竜丸展

のように、館内の床にはなはだしい凹凸を生じ、最近では危険なほどになりました。これはいうまでもなく、埋立地に特有な地盤沈下がその原因です。これに対し、東京都でも憂慮された結果、昨年末から床の修理に着手して下さいました。修理の完成は三月末とみこまれております。その間は、来観者の方々にご迷惑をおかけすることになりますが、お許し願いたいと思っております。

これも、度々ご報告申し上げているとおり、本協会では以前から、ビキニ水爆被災資料を中心とする資料館の建設を計画してまいり、そのための募金活動もこなってまいりました。しかし、資料館の具体的な構想の不足から、まだ十分な成果をあげておりません。

今年、計画の見直しをはかり、何とかして一日も早く、資料館が目の目をみるように努力をしたいと考えています。一つの私案としては、展示館のとなりにも、建設できないものかと考えていますが、これには、いろいろな制約があり、さらに検討を要するものと思われまます。これらのことにつき、みな様方からご意見、ご教示が得られれば、まことに幸せに存じます。

新年のごあいさつを申し上げるとともに、今年もなにとぞよろしく願いたいいたします。

(第五福竜丸平和協会会長)

## 来館者の声から



第五福竜丸みたくいなくてかいいふねの船長になってみたい。なつてもすいばくにはあいたくない。

(小島 吾朗)

せんそうがなければこんなことにならなかつたからもうせんそうをしなればいい。せんそうで死んだ人をかえせ。

(東加平小学校・四年)

人類みな兄弟、人間をかえせ  
(大森第二小学校 菅谷)

わたしはこのことについてしらべたんだけどこへ来てはじめて本当の船を見ました。船の様子だけを見たのに本当にたいへんなこととおこったということがわかりました。その近くにいた魚たちを食べた人もきつと病気になるだろうな、その人たちもかわいそうだな。第五福竜丸のつていたひ

ともくるしまなければいけなかつたかわいそうだな。船長の家族たちはショックをうけただろうな。

(社会科見学で、四年 山田智恵)

しゃしんでなまのさかなを食べたり、ほねとかわだけのようなからだとしんでいる人がいました。わたしはそれだけひもじかつたんだと思います。

(うさみ)

ぼくはこれを見てとてもふしぎに思つた。人げんはともおそろしいことをして人げんをころしています。へいわはほんとうになるのかなと思つた。

私はいままで社会科のけんがくをしてきたけど、これまでの中でいちばんいんしょうにのこつた。このことはたぶんいやせつたいに一生心にのこるだろうと思つた。

(川口市・木村由美子)

第五福竜丸ほかの展示を見て、これほどおそろしいことはないと思つた。昔の人は原水爆をおそれているけれど、今の人は福竜丸を大切にしようとしてこんな大切

にはかんしてあります。船の上のれなくてざんねんだけれどもこんどくるときは、のりたいたいと思つます。

(松本)

広島の原因を見た一人です。日々平和な世界を念じております。忘れないように時々参ります。

(漁業・船木)

自分も昭和二八年まで北洋、南洋マングロ船員として六〇トンの木船で操業したことがあります。今日第五福竜丸を拜見してただただ驚き、当時を思いだして、原爆のおそろしさと、今後二度とこのようなことのないようにと、船員のみなさんごめいふくと家族の方々に心からいたわりのことばをさしあげたいと思つます。

## ビキニ水爆被災29周年

三・一・二事件記念集会  
●とき 三月一日(火)午後六時~八時半  
●ところ 日本教育会館八階会議室  
●記念講演・特別報告など  
主催 第五福竜丸平和協会

## 編集後記

▼協会創立八周年を記念して、二号にわたって特別号にしたため、本号は新年にかかわらず、ささやかな会報。

▼床の改修工事は思ひのほか大仕事。はがされた床の下は五〇センチ以上の空洞、掘りおこすとまだゴミがでてくる。騒音もすごいがコンクリートの粉末で一面真っ白。船にふりそそぐさまは「死の灰」もかくのように降つたのかと思わせる。

▼工事の担当者とお船を見あげ話し合う機会が多いが、一人は、長崎造船に学徒動員で徴用中原爆に被災し、何十人の遺体をその手で運んだとか。身体健康でいまも何ともないが、原水爆は許せない、がんばれとはげまされる。

▼いつもの三分の一ぐらしか展示のため使えず見学者に迷惑をかけているが、十二月は今まで最高の見学者とこのところ記録がつづく。

▼ビキニ被災三〇周年までに百万の腫へ。83年の船出。(み)

### 新春風あげ大会で83年の出発

#### 福竜丸を大切にの風まいあがる

反核・平和の運動の正念場の83年—夢の島・福竜丸の新年の願いは、新春風あげ大会で大きく舞いあがりました。

好天にめぐまれ、絶好の風あげ日よりの一月十五日、集合の十一時前から、近くの小学生が思い思いの風を持って集まり、中にはテ



ントをはるお手伝いをしてくれる仲よし三人組もあるなど和気あいあい。いつも必らず参加するといふベテラン、熱心なファンもあって十一回目を数える今年は、恒例の行事としてすっかり定着した感があります。

百名をこえる参加者が、雲一つない大空に、キリッとたつ第五福竜丸展示館の屋根をバックに、の

びのびとした芝生のグラウンドいっぱいには風あげをきそう様子は壮観。今年もクラス全員で力をあわせ原水爆反対の願いこめて作ったという北砂小学校三年生の連風が、「やった」の歓声の中、一等賞。

今年は出版社などの協力による賞品も例年以上に多く、あたたかい甘酒のもてなしもあるなど、内容豊か。今年もみんな第五福竜丸をかわいがって「こう」と全員で展示館を熱心に見学しました。

第52回理事会ひらく  
一月二〇日、学生会館で平和協会第52回の理事会がひらかれた。

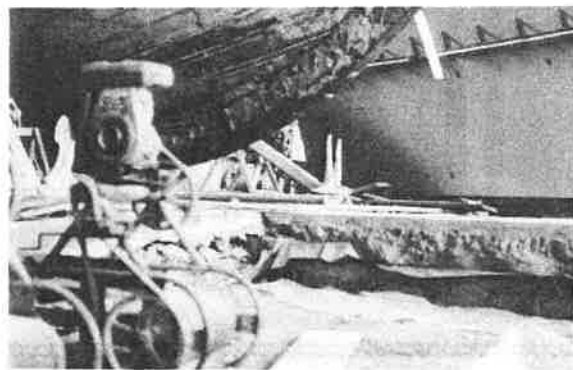
### 展示館の床面工事がはじまりました

#### たいらな床に三月一日に完成です

コンクリートを砕く音と振動、あたりいぢめんに舞いあがり降りそそぐ粉末—念願であった展示館の床面の改修工事が、昨年末からはじまり、三月一日完成めざしていま真最中。

一九七六年の開館当初から埋立

地特有の現象ではじまった沈下は七年目のいま、ひどいところは五〇センチをこえ、床の凹凸は「太平洋の波高し」の状況。工事は、床のコンクリートを全部がし、支えの土台と鋼材を補強、もとどおり平らに床面をはり直し、シー



トをひくという全面改修で工費は約一千万円。工事を請負った松竹園の担当者は、三月一日には、見ちがえるようにきれいにしますと胸をたたくます。船を中心にして片側ずつ工事をし、その間片側に展示物を移動し、半分ずつ開館するという状況がしばらくくりかえされることとなります。

展示方法にもちょっと工夫をこらしながら、床が平面になったらもう少し立体的な展示をといまから企画中です。

### 核世界の先端

#### マーシャル諸島

ロンゲラップの北部の島じま



<11> 写真  
文・島田興生

ロンゲラップ島に滞在した二月半の、とくに後半は時間をもて余すことが多くなつた。いつ船が来てもい

本島から北へ十五キロ、エニアエトク島等(エニウエトク環礁ではない)に行った時だった。この島に行くため、カヌーが使われた。カヌーの旅は私も初体験だった。鏡のような海面を帆をふくらませてカヌーは走った。へさきを切るかすかな水音だけの、静かなこの船に私はすっかり魅せられた。

カヌーが本島より数段と白砂の美しいエ島の海岸に着き、陸上にある一群の建物を見たとき、一瞬世界がタイム・スリップしたのではないかと疑った。

水爆がこの環礁を死の灰で汚染したあと、米軍はすべての住居を焼き払い、新しい住宅に建てかえた。一九五七年のことだ。これらの住宅は本島では傾いてしまったり、腐ったりで廃屋同然だ。

道も失なわれた家の周りには、背たけをこす雑草が生い繁り、部落の中央には小さな教会が残っていた。しかし、住宅だけは新築同様で、つい数年前に建てたように見えた。人が住まないと建物は老朽しないのだろうか。

かつてこの島には住民百余人が住んでいた。しかし、放射能汚染

は、環礁北部が一層ひどく、住民たちは建てかえた住宅に住む間もなく、この島を逃げだしてしまつた。

二十五年後の今日、この島のさらに北にある島じまに、低レベルの放射性廃棄物の陸上投棄計画が進められている。

十二月末、テレビ朝日で放映された「マーシャル諸島で異常出産続出」のレポートは衝撃的だった。豊崎博光さんの報告も迫真的だが、放射能の持つ非人道性、まさに緩慢なる死、その恐ろしさをみせつけた。真に核兵器を憎み、被ばく者の過去・現在・未来の心情にたち、島民の立場にたちきつた調査・医療団の派遣が真剣に考えられねばならない。

島田さんの一年にわたるレポートは次号で一まずしめくり、最近マーシャルのクエゼリン、イバイ島を取材したカメラマンの桐生広人さんのルポで、このテーマを追いつづける予定です。

こどもの誕生パーティーに村じゅうの人が教会前の広場に集まった。美しく見えるさんご礁の海は今後も村人の生命をむしばみ続ける(八一年十月、ロンゲラップ島)